

日本高齢者大会in東京 神奈川から233人参加



医療費無料化、自己負担ゼロが求められる
1日目は、13コースの学習講座、14の分科会、4か所の移動

第36回日本高齢者大会in東京は、11月12日～13日、大正大学と文京シビックホールを会場に開催されました。2日間で延べ3000人以上の参加で、神奈川県高齢期運動連絡会は、各団体・個人がWebを含め延べ233人参加しました。

分科会がおこなわれ、夜の交流集会も3か所で開催されました。とくに神奈川は、第6分科会「医療費無料化、自己負担ゼロが今こそ求められる」を担当。参加者は多くありませんでしたが、医療従事者と保険者、市民が参加して医療の実態を交流することができました。講演は、長友薫輝佛敎大学准教授が

神奈川県高齢期運動連絡会

輝け高齢期

第279号
2023年12月27日

神奈川県高齢期運動連絡会
横浜市中区不老町1-5-11-4F
TEL. 045-663-4061
FAX 045-663-4062
発行者:編集委員会

「高齢者医療はなぜ有料化されたのか?」老人医療費無料化から50年の節目に振り返り、改めて無料化へを」学習。講演は、医療費の自己負担増が国民の医療を受ける権利を奪っている実態を受けて、公的医療抑制政策、全世代型社会保障改革の問題点などを指摘しました。

神奈川県保険医協会の田中さんから「医療費無料化、自己負担ゼロが今こそ求められる」、東京都日の出町の折田前町議から、「日の出町の医療無料化の現状と課題」の特別発言を受けました。

あらためて医療保障の充実を図り、「疾病と貧困対策」「健康格差対策」をどうすすめるかを話し合いました。と



りわけ、若者たちが自己責任の宣伝にはまり、社会保障としての医療を受ける権利を奪われている現状をどう打開するかが共通した話題になりました。

戦後を考えずに戦争を始めてはいけない

2日目は、1700人以上の参加で全大会が開催されました。会場いっぱい参加者を前に、柳澤協二さんが「非戦の安全保障論：戦争しない国であり続けられるために」と題して記念講演しました。柳沢氏は、ウクライナ戦争から学ぶこととし

て「大国の抑止が機能しない時代にあり、大国間の相互不信が戦争の要因となった。『戦後』を考えずに戦争を始めてはいけない」と警告。ときまさにイスラエルによるガザへの攻撃が行われている中、時宜に合った講演になり、声をあげ続けることこそ政治を動かすことと確信をもつことができました。



「保険証残してください」声広がる



11月25日、桜木町駅前で宣伝・署名行動
11月25日(土)午後1時半から、桜木町駅前広場で、「なくすな保険証!神奈川県連絡会」の宣伝行動を、12団体26人(保険医協会の開業医2人を

含む)の参加で実施しました。寒い中での宣伝でしたが、チラシ・ティッシュ1000枚が無くなり、署名42筆、シール投票75(反対72、賛成3)。保険医協会のゼロくんの着ぐるみが登場し、多くの子どもたちが寄ってきて握手していました。多くの人との対話も広がり、「周りの人20名の署名を取ってくる」と署名用紙を持ち帰ってくださった方もいました。「姉がグループホームに入所するので、マイナ保険証を探したが見つからずパスワードも忘れており大騒ぎをした。結局再発行して持って行ったが、手続きがたいへんだった。

今のままの保健証でよい」と署名をしてくださいました。
12月14日、伊勢佐木町で宣伝・署名行動
12月14日(木)午後2時から伊勢佐木町有隣堂前で宣伝・署名行動。5団体14人(保険医協会の開業医3人含む)参加。署名26筆(画版3つにて)。チラシ・ティッシュ500個配り切りました。40代サラリーマン風の男性は「国はなぜこのようなこと(保険証廃止)をするのか。資格確認書を申請しないと発行されないなら廃止はやめればいいのに」。スピーチに聞き入っていた60代くらいの女性は「マイナンバ

介護家族から33件の電話相談!!



11月11日に実施した、神奈川県「介護・認知症なんでも無料電話相談」は介護利用者・家族から33件の相談を受けました。民医連からケアマネージャー、ソーシャルワーカーの方6人など9人で相談対応しました。相談件数は、昨年の15件から大幅に増えました。NHKが昼のニュースで放映し、そこから切れ目なく相談が続きました。

「母要介護5、自宅で見ている。私は正社員だったが離職した。母の利用料は限度額を超えている。74才の母を介護しているが、社会的に何も役にたっていないし、どこを目指していけばいいのか出口の見えない介護。風呂にも入ってくれないで困っている」など、介護家族からの悩みが相談されました。介護疲れ、家族関係の問題、ケアマネやヘルパーとの関係の不満を訴えなどで、多くが30分を超える相談となりました。

カード、よくわからないのよ。保険証なくなったら困るのよねえ」と署名をしてくれて、ティッシュは持って帰って夫に署名させるとのことでした。ほかに3人ほどから話しかけられ、ほとんどが政

権への不満の声でした。12月には、全県約50カ所で宣伝・署名行動が実施されています。**神奈川県下6市町議会で国に意見書提出**
保険医協会、建設労連・神奈川土建、地域社協や地域の各団体

が、市町村議会に、「現在の保険証の存続」を求める意見書提出の請願陳情を出しました。その結果、座間市、愛川町、鎌倉市、海老名市、南足柄市、葉山町の6市町議会が国に意見書を提出しました。

**神奈川保険医協会の
好感度が上がった**
馬場 一郎さん
(保険医協会福理事
長・歯科医師)



高齢者大会はどれも目を見張るすばらしい企画で、まさに高齢者の高齢者による高齢者のための大会と感じた。私が参加したのは、第6分科会「医療費無料化、自己負担ゼロが今こそ求められる」。参加者は多くはなかったが、十分な討論時間がとられ、充実した意見交換がなされた。メインの長友教授の講演は重厚な内容で、高齢者医療費はなぜ有

料化されたのか、歴史的背景を踏まえてわかりやすく解説された。その事態を知らない世代には大変参考になったと思われる。私は、以下の2点を質問した。
①所謂コンビニ受診についてどう考えるか。
②後期高齢者医療費2割化導入により受診抑制がある。2割化の判

賛同しないのか。若い世代の方はどう考えているか。今後の活動への展望についても建設的な論議が交わされ、盛会のうちに終了した。もっと財政面など真つ向から反対の意見等、喧々囂々の論議を期待したが、そこまでの発言はなく、少し物足りなさを感じた面もあつた。

**いまこそ医療受診時の
窓口負担の軽減を**
二村 哲さん
(保険医協会副理事
長・歯科医師)



第6分科会に参加し

日本高齢者大会に参加して

断は間違っていたのではないか。どう思われるか。今後どうしていくのか。
参加者から、実際にロの会の趣旨に賛同して行政に働きかけたが、財政面で一蹴され否決されたとの貴重な発言があつた。ゼロの会に東京保険医協会はなぜ

た。神奈川保険医協会の田中氏は、ゼロの会について深掘りしたかったのだろうと思う。
個人的には、75歳以上の医療費2割化反対の運動を含めて、神奈川保険医協会の好感度が上がったのではないかという意味で意義深い大会だったと思う。

ました。窓口負担の無料化を中心とした貴重なお話を有難う御座いました。会場からも多くの意見が出てとても勉強になりました。
長友先生のお話を聞いて、健康保険の歴史の中に日本政府が取ってきた社会保障費抑制策があり、医療費を抑

えようと根拠なく窓口負担が引き上げられてきたことがよく理解出来ました。
OECDの報告では受診時の自己負担を増やすことが公的医療費の節約になる可能性は小さく、立場の弱いグループには負担免除が必要とし、WHOも社会保障の機能を強めて経済的な弱者を救うべきとしています。
コロナ禍を経て実感した方も多いと思いますが、病気は自己責任ではなく誰もがかかる可能性があり、皆で支えなくてはなりません。実際は折田さんの報告にもあつたように東京都の日の出町など高齢者の医療費負担を軽減しても医療費はそれほど増えない。むしろ検診などの受診を勧め、

住民の健康意識を高める中で医療費を無料化することで早期発見・早期治療に繋がりが重症化を予防出来ることが実証されたと思います。私は歯科医師ですが実際に外来で診療する中で、病気は早めに治すことに限ると実感しています。
今、電気・ガスをはじめ食料品も高くなつており、年金生活者など多くの高齢者の生活はますます厳しくなっています。今こそ高齢者をはじめ低所得者の生活・医療を守るべく、医療受診時の窓口負担の軽減が図られるべきと思います。
多くの先進国同様、誰もが安心してかかる医療を目指して窓口負担をなくしていきましょう！

**平和と多世代交流の
重要性を強く感じた**
鷲北 栄治さん
(川崎医療生協理事)



2日目の全大会での「基調報告」では、「戦争する国への大転換と社会保障の解体がすすむもとで、高齢者が若者など多世代と手を結び、憲法の平和的生存権を生かす社会への運動の連帯を大きく広げよう」と訴えた。

今、ロシアのウクライナ侵攻、ハマスによる無差別攻撃とイスラエルの「ジェノサイド」と言われるガザ攻撃。日本では安保3文書を閣議決定し、5年間で43兆円の軍事費、大軍拡に突き進もうとし

ている。こうした中で、運動の方向として「高齢者が若者など多世代と手を結び」との呼びかけは新鮮なものを感じた。

「多世代が知り合つてつながる豊かな地域づくり」の分科会が開かれ、全体集会でも正大学の学生による地域とつながったボランティア活動が報告され

かれた第1回日本高齢者大会に参加した時は35歳、72歳になった今、高齢者運動の立派な構成員を自覚した大会だった。

**戦後世代の高齢者が
何を残すか問われる**
仲戸川 実さん
(神奈川県職労連職
者こだま会)

第36回日本高齢者大会 in 東京が11月

日本高齢者大会に参加して

た。平和と多世代交流の重要性を強く感じた。1日目は、第14分科会「加齢による難聴に対する補聴器助成」に参加した。東京23区すべて、新潟県30市町村の全自治体で助成制度が実施されるなど、運動が前進していることを学んだ。

1987年京都で開

11日・12日に「ストップ軍拡 かがやけ人権」をスローガンに開催されました。1日目は、1360人の参加で13学習講座、14分科会、4移動分科会、3つの夜の交流会が行われました。

2日目の全体会は文京シビックホールに約

くことができ大変良かったです。長い間防衛官僚として働いてきた柳澤さんならではの話は説得力がありました。戦争の経験者も含め高齢者の多くが主張する「戦争はダメ、憲法を守れ」は当たり前かと思いますが、「憲法守れ」が若者に通じな

い時代になつている。戦後世代は自分が憲法に守られた実感がな

い時代になつている。戦後世代は自分が憲法に守られた実感がない。「戦争を経験した世代が退場し、自分の経験として戦争を語る世代がいなくなった今日、これから日本を背負い、戦争の災厄を受け止めることになる若い世代に、戦争を知らない戦後世代である高齢者が何を残すかが問われている」という指摘に感銘を受けました。大会・交流会を通じて高齢者パワーを目の当たりにすることができ大変有意義なものとなりました。

**必要な介護を
使う**
よう声をあげよう

藤田 洋子さん
(年金者組合・茅ヶ崎支部)

私は、第5分科会「介護」を受講しました。

18年前、母を介護するため、実家に戻りました。介護保険を利用するための手続きや、母にとってより良い内容はなかなか、いつも親身になつて考えてくれたのがケアマネジャーでした。そのケアマネジャーが不足していると後援者の服部万里子さんの話でした。ケアマネジャーの受給者が激減しているためです。仕事に見合う賃金が低いのも一因だと。利用者、事業者、労働者それぞれの立場からの報告もあり、本当に深刻だと思ひました。

介護を受ける人達が、必要な介護をえるように、現場から地域から声をあげること。出来ることから始めようと力強く訴えました。